

新・町立真室川病院改革プラン  
点検・評価報告書

令和4年3月

町立真室川病院

## はじめに

平成 29 年 3 月に策定した新・町立真室川病院改革プラン（以下、「新・改革プラン」という。）は、「経営の効率化」による数値目標に対する達成評価に加え、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」の項目も新・改革プランに新たに取り入れたことで、地域医療構想における高度急性期・急性期病床が過剰、回復期病床が不足する課題の解決をすべく、最上構想区域内の基幹病院である県立新庄病院をはじめとした医療機関の動向を注視しながら、町立真室川病院の病床数や病床機能の適正化を目指し、役割を明確化していくこととしており、これまで検討を行ってきた。そして令和 2 年 2 月、町立真室川病院において病床機能に関しては高齢者や認知症患者の増加傾向を踏まえ一般病床を地域包括ケア病床に一部転換し、急性機能を残し病床機能報告をもって全体的な回復機能への移行とすることを院内で決定し、同年 3 月新・改革プラン評価委員会で承認、最上地域保健医療協議会（地域医療構想調整会議）の合意を得て、令和 2 年 11 月病床機能報告にて「急性期」から「回復期」に移行、新・町立真室川病院改革プランの到達目標に大きく前進したところである。

このような状況も踏まえながら、「新・町立真室川病院改革プラン評価委員会」による客観的視点における評価・助言を行い、病院経営の安定化による持続可能な経営を確保するものである。

尚、本年における評価は、令和 2 年度実績及び令和 3 年度見込みに対する評価について報告するものである。

## 点検・評価

### 第 1 新・町立真室川病院改革プランに係る各項目に対する評価

#### 1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

##### 新・改革プラン概要・項目

円滑な在宅医療への移行を進めるため、急性期病床から地域包括ケア病床への一部転換、患者の動向を見ながら縮小を含めた病床規模の適正化を検討

##### 病院総括・成果等

##### 令和 2 年度

「現在の一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換、また急性期から回復期へ移行する。病床数は削減しない。」との昨年度当委員会で承認を得た内容に基づき、今年度の病床機能報告にて「回復期」と報告した。このことで厚生労働省より公表された「再編・統合が必要な病院」の対象から外れることとなる。尚、地域包括ケア病床の転換については、新型コロナウイルスが落ち着くまで（令和 4 年 4 月転換見込み）の間は見送ることとした。

### 令和3年度

令和元年に当委員会において「一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換、また急性期から回復期への移行、病床数は削減しない。」との内容で承認、令和2年度の病床機能報告にて国に「回復期」に移行する旨、報告済。ただし、地域包括ケア病床の一部転換については、いまだ新型コロナウイルスが収束していない状況から、本年においても見送ることとした。尚、病床規模の適正化については、引き続き検討を行っていく。

### 評価・助言

新型コロナウイルス感染症が収束しない現状にあり、地域包括ケア病床への一部転換は見送ることとなったが、不測の事態にも対応しなければならない可能性もあるが、国の動向等を注視しながら、計画に沿った地域包括ケア病床への移行準備を進めること。

## 2. 経営の効率化

### (1) 人材確保

#### 新・改革プラン概要・項目

医師確保 各関係機関に医師派遣の働きかけを行う  
研修医等の積極的な受け入れ

#### 病院総括・成果等

##### 令和2年度

山形県及び山大付属病院に対し継続依頼

- ・ 山大医師派遣状況 (月)消化器内科 (水)循環器内科  
(土日祝)整形外科、内科
- ・ 県立新庄病院 (火)整形外科  
(木)整形外科、内科
- ・ 研修医 2名
- ・ 医師充足率 96.92% (R3.3 現在)

##### 令和3年度

山形県及び山大付属病院に対し継続依頼

- ・ 山大医師派遣状況 (月)消化器内科  
(水)循環器内科  
(土日祝)整形外科、内科
- ・ 県立新庄病院 (火) 整形外科  
(木) 整形外科・内科
- ・ 研修医 6名
- ・ 医師充足率 101.29% (R4.1 現在)

評価・助言

これまでの大きな課題のひとつであった医師確保に関して、医師標準数の充足率 100% に達したことは、医療法に定める適正な診療を行うため必要な人数をクリアしたので、評価すべき点である。しかしながら、山形大学附属病院、県立新庄病院からの協力もあってこそその到達であることから、今後も引き続き長期的な展望を持って医師確保対策に全力を挙げること。

(2) 収益の増加

新・改革プラン概要・項目

入院基本料 13 対 1 の堅持

病院総括・成果等

令和 2 年度 継続

令和 3 年度 継続

評価・助言

継続して取り組み、サービスの維持及び収益の確保に努めること。

※「13 対 1」とは患者 13 名に対し看護師 1 名の配置体制で、入院基本料収入の安定確保が見込めます。

新・改革プラン概要・項目

病床利用率の向上

病院総括・成果等

令和 2 年度 病床利用率 77.7%

令和 3 年度 病床利用率 73.7% (2 月末現在)

評価・助言

前年と比較し大きく落ち込んでいるが、原因の分析を行うこと。

新・改革プラン概要・項目

未収金対策

病院総括・成果等

令和 2 年度

患者未収金 8,158,680 円

・不納欠損処理 なし

令和 3 年度

患者未収金 7,778,420 円 (年度末見込み)

・不納欠損処理 77,050 円 (時効 1 件)

評価・助言

町未収金対策委員会との連携を図り、また要因分析を行い未収金対策に努めること。

新・改革プラン概要・項目 CT・MRI・内視鏡稼働向上
病院総括・成果等 令和2年度 使用件数 CT 901件 MRI 774件 内視鏡 447件 MRI 更新に係る検討委員会立ち上げ準備 令和3年度 使用件数 CT 1,139件 MRI 768件 内視鏡 418件 (2月末現在) MRI 更新に係る検討委員会 2回開催
評価・助言 MRI 検討委員会の検討経過について報告すること。尚、広域的な連携も含め、稼働率の向上策を検討すること。また、町民への機器更新のメリットなど、情報発信にも努めること。

新・改革プラン概要・項目 査定減の原因分析
病院総括・成果等 令和2年度 継続 査定額 3,220,302円 増減 32,325円(前年比) 令和3年度 継続 査定額 2,964,065円 増減△256,237円(前年比)
評価・助言 今後も継続して内容の精査・分析を行うこと。

新・改革プラン概要・項目 新たな施設基準届出
病院総括・成果等 令和2年度 医師事務作業補助体制加算2 薬剤管理指導料 令和3年度 なし
評価・助言 積極的な算定環境の整備と定期的な点検・評価が必要である

新・改革プラン概要・項目 スタッフ接遇
病院総括・成果等 令和2年度 継続(声掛け、混雑時のイス出し) 令和3年度 継続
評価・助言 定期的に患者アンケート等により接遇等に対する調査をし、強み弱みを抽出し、現状把握・改善等に取り組むこと。

新・改革プラン概要・項目 情報発信
病院総括・成果等 令和2年度 アクセス数 377.5人/月 令和3年度 アクセス数 421.6人/月
評価・助言 アクセス数が順調に伸びているので、適時更新を行い、さらに情報発信に努めること。

新・改革プラン概要・項目 新型コロナウイルスへの対応
病院総括・成果等 令和2年度 R2.11.1より新型コロナウイルス感染症診療・検査医療機関の指定を受け、当検査を行っている。また、4月から開始予定のコロナワクチン接種の準備を進めている。 令和3年度 新型コロナウイルス感染症診療・検査医療機関の指定の継続、各種感染対策、新型コロナウイルスワクチン接種、R3.11.1より疑い患者受入れ協力医療機関の指定
評価・助言 引き続き、国、県、福祉課と連携を図りながら、必要な体制の確保に努めること。

### (3) 経費節減

新・改革プラン概要・項目 電子カルテ導入効果の検証
病院総括・成果等 令和2年度 「電子カルテ導入効果の検証」に修正 ・効果資料(資料1) ・待ち時間分析(資料2) 令和3年度 「電子カルテ導入効果の検証」に修正 ・待ち時間分析(資料3)
評価・助言 グラフを見る限り、明らかに長時間の待ち時間患者が減少しており良い傾向と思われる。また、長時間についても職員や点滴・検査、他科受診等の理由が明確であり、良いと思われる。今後の課題は、1時間～2時間台をいかにして減少していくか検討すること。また、導入時のメリットについて、想定通りの効果が発揮されているか、コスト分、利用者のメリットとしてでている、分析すること。

新・改革プラン概要・項目 経費、材料費コスト削減	
病院総括・成果等	
令和2年度	委託料に係るリストによる前年対比
令和3年度	委託料に係るリストによる前年対比
評価・助言	
令和2年度決算における医業収益に対する経費の割合は、36.9%で全国平均の22.7%、類似施設平均31.2%を大きく上回っている。前年度の47.6%に比べ、11.3ポイント下がっているため、経費節減の努力は評価できるが、継続的に取り組む必要がある。また、令和2年度決算における医業収益に対する材料費の割合は12.7%であり、全国平均の25.3%、類似施設平均の15.6%を下回り、これまでの継続的な取り組みを評価できる。	

新・改革プラン概要・項目 ジェネリック医薬品使用推進	
病院総括・成果等	
令和2年度	後発医薬品使用加算1継続 利用率 92.26% (R2平均)
令和3年度	後発医薬品使用加算1継続 利用率 93.24% (2月までの平均)
評価・助言	
すでに高い数値であるが、これ以上の推進を図ることが可能なのか。今後違う表現が必要。	

新・改革プラン概要・項目 光熱水費、消耗品費の削減	
病院総括・成果等	
令和2年度	R3のLED照明、新電力導入に向けた業者聞き取り、調査
令和3年度	電気料金の見直し、LED照明導入（リース契約済、3月から工事開始）
評価・助言	
継続して取り組むこと。	

#### (4) 今後の診療所のあり方

新・改革プラン概要・項目 診療所運営は継続しつつ地域包括ケアシステム構築と在宅医療機能の充実	
病院総括・成果等	
令和2年度	患者数 1,231人
令和3年度	患者数 1,036人 (2月末現在)
評価・助言	
在宅関連も、点数改定等により年々充実・見直しが図られている為、積極的な導入を検討すること。	

### 3. 再編・ネットワーク化

#### (1) 二次保健医療圏ネットワーク化

新・改革プラン概要・項目
県立新庄病院を中心に役割分担を明確にし、連携の強化・情報の共有化を図る
病院総括・成果等
令和2年度 紹介率 19.2% 逆紹介率 24.8%
令和3年度 紹介率 20.6% 逆紹介率 18.4% (2月末現在)
評価・助言
紹介・逆紹介などを積極的に行い、医療連携を推進する上では、もがみネットの更なる利用拡大も重要であると思われる。引き続き連携の強化を図ること

#### (2) もがみネット

新・改革プラン概要・項目
もがみネット活用による医療連携の強化
病院総括・成果等
令和2年度 登録件数 8件
令和3年度 登録件数 9件 (2月末現在)
評価・助言
情報の共有・連携強化を図るため積極的に登録を促すこと。

#### (3) 介護保険施設との連携

新・改革プラン概要・項目
地域医療構想を踏まえた介護保険施設等との連携
病院総括・成果等
令和2年度 地域包括ケア病床への転換に向けた連携の強化 (進捗等の状況共有)
令和3年度 地域包括ケア病床への転換に向けた連携の強化 (進捗等の状況共有)
評価・助言
引き続き、連携の強化を図ること。

### 4. 経営形態の見直し

新・改革プラン概要・項目
現状を継続しつつも、地方公営企業法の全部適用との比較検討 地域医療連携推進法人も視野に入れて方向性を検討
病院総括・成果等
令和2年度 「地域医療連携推進法人」は、当院だけで進められることではなく、 また現時点では、現実的ではないためこの部分を削除
令和3年度 当院の現状において、一部適用がもっとも効果的



評価・助言

当院にとって現行の方法が効果的であることを整理すること。

## 第2 数値目標の達成状況及び第3 経営効率化進捗状況

【数値目標の達成状況】

(単位：%、人)

	2年度計画①	2年度決算②	達成率	達成状況	地方公営企業年鑑
経常収支比率	100.6	100.4	99.8	B	103.8
医業収支比率	66.9	69.7	104.2	A	81.1
職員給与費対医業収益比率	68.1	82.1	82.9	-	68.8
病床利用率	80.3	77.7	96.8	B	69.2
入院患者数	15,571	15,593	100.1	A	17,520
外来患者数	44,696	45,407	101.6	A	50,370
紹介率	18.5	19.2	103.8	A	
逆紹介率	24.9	24.8	99.6	B	

※達成状況（A：目標達成 100%以上 B：一定の実績 95%以上 C：目標未達成 95%未満）

※参照 平成30年度地方公営企業年鑑 50床以上100床未満の黒字病院指標

※職員給与費対医業収益比率は、給与制度（会計年度任用職員制度）の変更により達成状況は対象外とする

### 数値目標に対する評価

区分	達成状況
A	目標達成 100%以上
B	一定の実績 95%以上
C	目標未達成 95%未満

令和2年度における数値目標の達成状況は、A評価5項目、B評価1項目、C評価2項目であったが、本年度においては、A評価4項目、B評価3項目、C評価0項目の結果であった。項目ごとにもみると経常収支比率及び病床利用率については昨年度A評価であったが本年はB評価となった。理由として挙げられることは、令和2年度の形状収支比率の設定において、見直し時点での実績とともに目標値を設定したが、決算では目標値を下回る結果となった。また、病床利用率においては、例年の推移をもとに設定したものの人口減少や新型コロナウイルスの影響による入院患者数の減少と考えられる。一方で、入院、外来患者数においては、昨年B、C評価だったのが本年はA評価となった。このことに関しては、見直しの際、現状に見合った患者数の推移を設定したことにより、大きくかい離することなく、一定の実績の範囲での結果となった。評価としては、経常収支比率、病床利用率、逆紹介率はBの「一定の実績」であった。今後は目標達成に向け分析を行い新・改革プランに沿った取組みを行うこと。

## 総合評価

最後にまとめとして、当新・改革プランにおけるメインテーマである「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」において、昨年度の病床機能報告をもって病床機能を「急性期」から「回復期」へ移行できたことは、達成に向けて大きな前進と言える。しかしながら、収束の見えない新型コロナウイルスは病院経営におけるあらゆる場面において大きな影響を与え、本年においても「地域包括ケア病床への一部転換」は見送ることとなったが、引き続き十分に協議を重ねより効果的な転換を目指し、またその経過については、当新・改革プラン評価委員会に報告すること。

医師確保について、令和4年2月末現在の医師充足率は101.29%と令和3年3月末現在の96.92%と比較し大きく改善されたことは評価できる。しかしながら、山形大学附属病院、県立新庄病院からの派遣協力があつてこそ充足率100%のクリアである。また、現在、常勤医師5名のうち3名が60歳代後半、1名が70歳代（会計年度任用職員）の状況にあり、長期的な病院運営を考え今後も引き続き、各関係機関との連携を密にし、全力で取り組む必要がある。また、看護師、医療スタッフ等人材の確保にも取り組むこと。

MRI装置の効果について、令和4年2月に開催したMRI検討会における検討内容について報告すること。また、町民に対してもMRI装置に関して周知・PRを積極的に行い、稼働率向上につながる取り組みを行うこと。

本年3月に国から新たなガイドラインが提示されたが、策定までは当改革プランの期間を延長することから、引き続き当改革プランの達成に向け実行に取り組むこと。

新型コロナウイルスの感染は一時的には落ち着きを見せた期間はあつたものの、感染力の強い変異株の蔓延とともに真室川町内にも感染者が拡大したことで、町立真室川病院は、依然として大変な経営状況に強いられていると推測する。まだまだ先が見えないこのような状況において、町立真室川病院は当町及び近隣町村における基幹的病院として地域医療を支えるべく、どのように病院運営を行っていかなければならないかを考えこの状況を乗り越え、そして当評価委員会における各委員からの評価・助言を踏まえながら、成果につなげられるよう取り組まなければならない。そして、町立真室川病院が安定した病院経営のもと、地域住民に対する充実した医療サービスの提供を期待する。

## 医療情報システム（電子カルテ）導入による効果について

●電子カルテシステム導入による合理化経費年間見込額

合計金額 8,190 千円/年

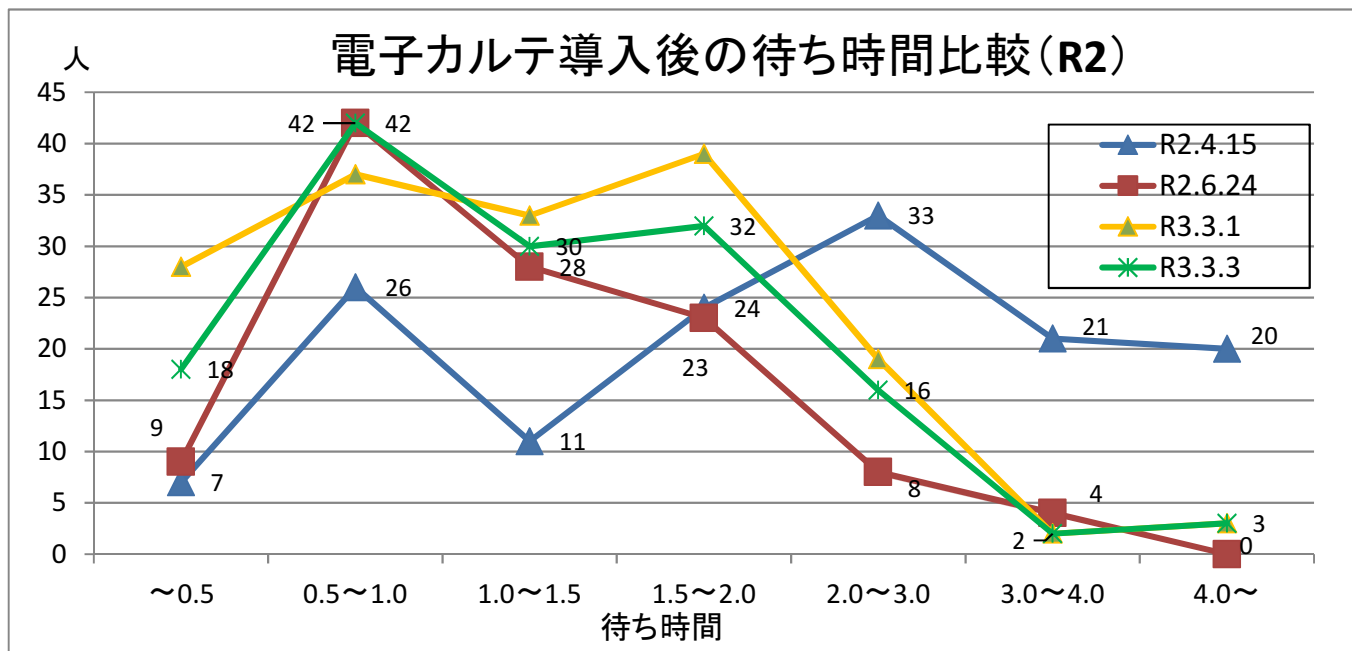
業務の効率化による人件費の削減、医師の負担軽減、外来患者の待ち時間短縮、入院・外来業務の効率化、医療事故防止対策、災害対策等の危機管理対策及び紙文書等の削減等導入効果（経営合理化）が見込まれる。

効果の項目	効果の内容・効果額の積算	効果額（見込み）
人件費の削減		
医療職員時間外手当の減	6,683千円（R1実績）×45% = R2見込み	3,007 千円
医師の負担軽減	業務効率化 伝票やカルテ搬送業務減少、アライバイ管理業務の効率化 一元管理による情報の共有、記録等作成の効率化 診療情報の一元管理による情報の共有、記録等作成の効率化 医療安全の向上 患者の注意情報表示、指示詳細の確認等が容易 指示内容の伝達もれ、ミスの防止	
総合窓口職員	臨時職員1名分 2,981千円	2,981 千円
作業補助者	カルテ運搬等委託業務減により現行契約内で窓口業務を委託へ 臨時職員1名 2,232千円×2/6時間 紙伝票一部廃止による業務の減	744 千円
返戻の改善	前年比較（電子カルテ使用前・後）	5,054 千円
薬品費比率	年間費用×3%	
※医業収入×8.9%	655,845千円×8.9%×3%	1,751 千円
事務経費削減（印刷代）	印刷製本費 ※令和元年度決算に基づき積算	
紙カルテ、診療用伝票等	693千円	693 千円
医事システムリース料	3,156千円/年（6年）	3,156 千円
上記保守料（ハード）	668千円/年	668 千円
”（ソフト）	1,280千円/年	1,280 千円
薬剤システムリース料	1,255千円/年（6年）	1,255 千円
電子カルテ・医事システム、保守料・ネットワーク料		▲ 12,399 千円
合計		8,190 千円

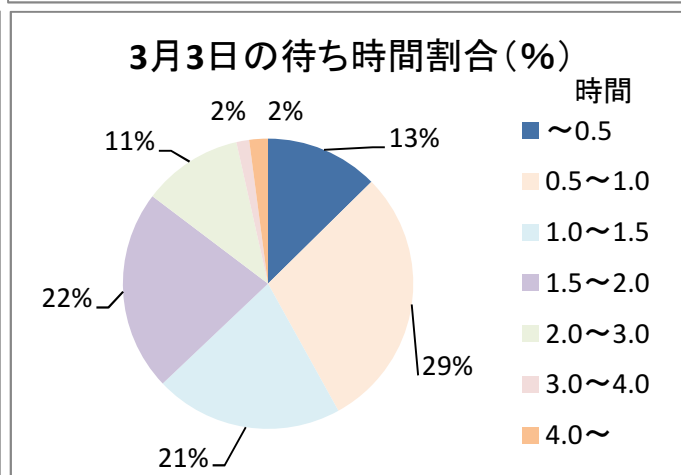
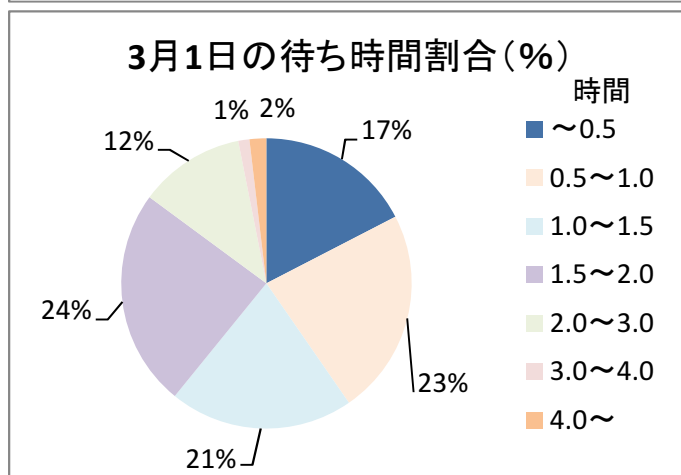
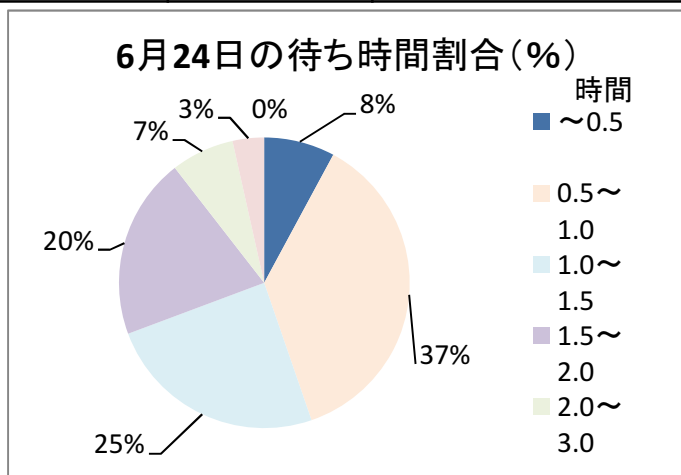
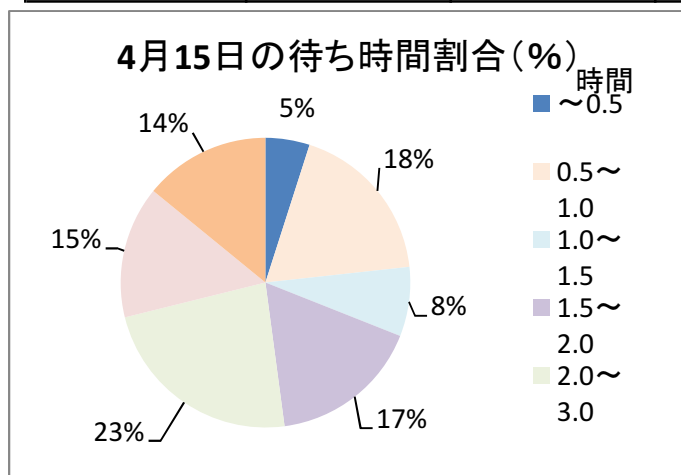
【参考】収益（令和元年決算）

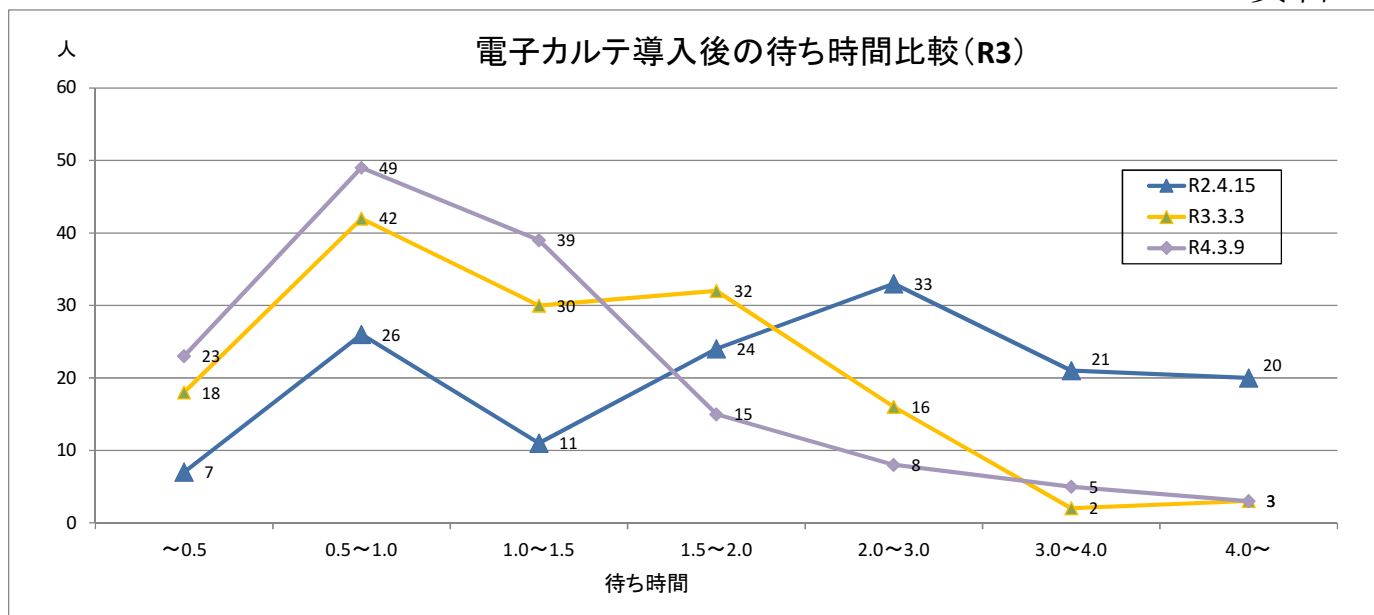
入院収益 402,976千円

外来収益 252,869千円

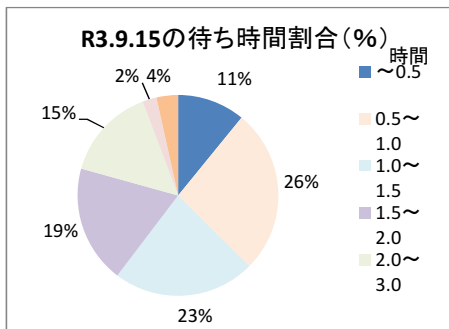
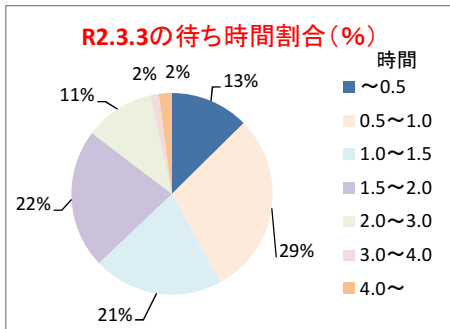
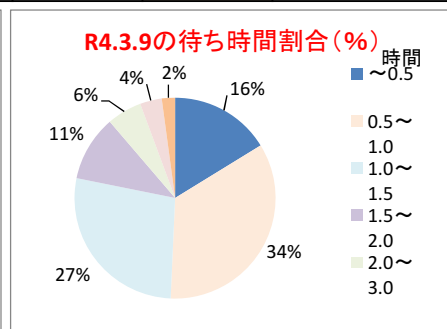
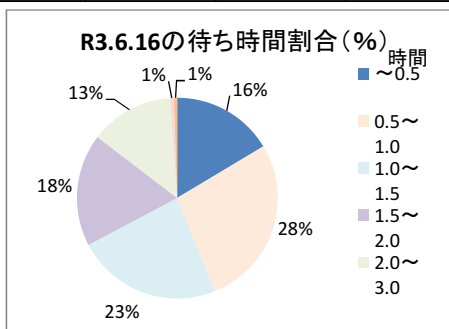
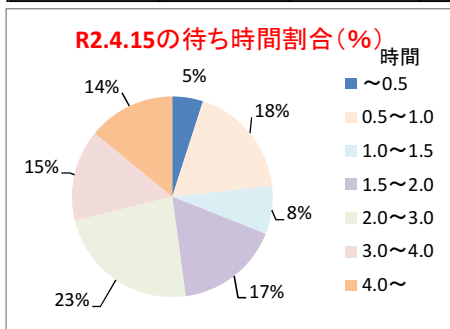


待ち時間	R2. 4. 15	R2. 6. 24	R3. 3. 1	R3. 3. 3	備 考
~0.5	7	9	28	18	
0.5~1.0	26	42	37	42	
1.0~1.5	11	28	33	30	
1.5~2.0	24	23	39	32	
2.0~3.0	33	8	19	16	
3.0~4.0	21	4	2	2	
4.0~	20	0	3	3	職員、点滴、検査等
対象人数	142	114	161	143	





待ち時間	R2.4.15	R2.6.24	R3.3.3	R3.4.14	R3.6.16	R3.9.15	R4.2.2	R4.3.9	備考
~0.5	7	9	18	20	28	19	14	23	
0.5~1.0	26	42	42	41	47	46	30	49	
1.0~1.5	11	28	30	39	40	40	39	39	
1.5~2.0	24	23	32	27	31	33	29	15	
2.0~3.0	33	8	16	29	23	26	16	8	
3.0~4.0	21	4	2	3	1	4	4	5	2科受診等
4.0~	20	0	3	3	1	6	1	3	職員、点滴、検査等
対象人数	142	114	143	162	171	174	133	142	



折れ線グラフは、対象人数が同程度の水曜日を抜粋、円グラフは、稼働開始以降の水曜日を抜粋。  
 R3.3以降、待ち時間1.5時間までがおおよそ60%以上と安定した待ち時間となっている。  
 検査、点滴、2科受診等があった場合は、待ち時間が長くなる場合もある。  
 R4.3.9において、待ち時間1.5時間までが70%を超え、全体的に早い場合もある。  
 反対に、来院患者数が多かったR3.9.15においては、1.5時間まで60%、1.5~3.0時間が34%と多く待つ場合もある。  
 稼働当初に比べ、大きく改善しているのが分かる。今後も引き続き、分析を行っていく。

